

印刷博物館共催

日本デザイン学会タイポグラフィ研究部会発足記念講演会

# TYPOGRAPHY — Old & New

—ボドニ&ユニバーサルデザイン書体

日本デザイン学会にタイポグラフィ研究部会が発足いたしました。その記念の講演会を企画し、今後の学会におけるタイポグラフィ研究発展を促進するために、この分野で活躍中の学会員に講演をお願いし、大いに学ぶ機会を与えていただくということからこの講演会を印刷博物館のご協力を得て開催いたします。

印刷博物館企画展『百学連環』に見られるように、書物が出来、印刷本の時代には文字の使用が多く、事物を記録してきました。展覧会のおびたしい書物に記された文字情報は、タイポグラファーの手により、文字を人と結びつけてきたのです。この講演では人と文字の結びつきが語られ、文字、人によるデザイン、印刷への敬意の念が益々膨らみます。

■講演場所 印刷博物館 グーテンベルグルーム(客席80)

(講演会参加者は、企画展「百学連環」入場者です。)

■講演日時 11月24日(土) 15:00～17:00

## ■講演題目と講演者の紹介

講演 『ボドニとその周辺』

講演者 田中 正明(たなか まさあき)

日本デザイン学会名誉会員、女子美術大学名誉教授

氏は、グラフィックデザイン分野での教育研究の第一人者です。また、タイポグラフィの研究成果として、著書『ボドニ物語』(1998)、『ヴィクトリア時代のタイポグラフィ』(2006)の刊行を知れば、タイポグラフィがいかに氏の中心を成しているかが分かります。今回は、偉大なタイポグラファー ボドニ について聞く事ができる千載一遇の好機です。

講演 『ユニバーサルデザイン書体の開発』

講演者 宮崎 紀郎(みやざき みちお)

博士(学術) 元千葉大学教授 日本デザイン学会名誉会員

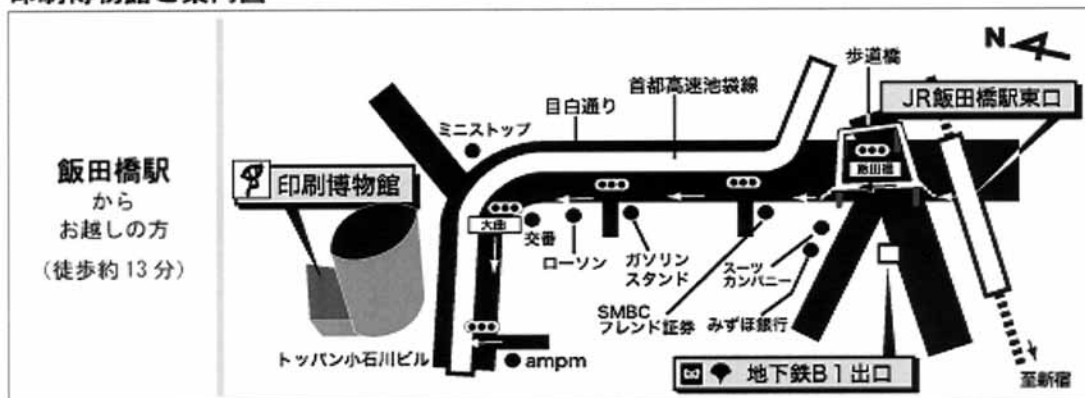
氏は、千葉大学工学部工業意匠学科で長年教育研究に取り組み、新聞のデザインについての研究で博士の学位を取得しています。遅れのみえる新聞紙面デザインを現代のタイポグラフィの視点で調査・分析を行い、読みやすい新聞のデザインを提案しています。

氏は、書体との関わりが深く、ワープロ用の日本語フォントデザイン、そして、最近では携帯電話用にユニバーサルデザインとしての書体開発を行いました。これらの書体デザインの実際が今回明らかになります。

●講演会来場者へのご案内

1. 講演会来場者は、印刷博物館での企画展『百学連環』会場へ入場してください。入館料は団体割引が適用されますので、50円引きです。講演受付は、ゲーテンベルクルームの前に設けます。講演参加者は、そちらで受け付けてください。
2. 印刷博物館への集合は、午後2時とし、印刷博物館より15分間のご挨拶と館内の見所などを説明、3時までの45分間を企画展『百学連環』見学の時間といたします。
3. また2時30分からは、VRシアターで『プランタン=モレトウス博物館』が上映されますので、ご覧になれます。定員が30名と限られていますので、あらかじめご了解ください。※VR上映時間が12:30から4時まで、30分おきの上映されます。
4. 講演会は3時～5時の間で開催します。博物館は、講演会が終了した後も6時までは見学が可能ですから、3時から来られた方も見学ができます。

印刷博物館ご案内図



お問い合わせ

印刷博物館 〒112-8531 東京都文京区水道 1-3-3 Tel:03-5840-2300(代)

日本デザイン学会タイポグラフィ研究部会 幹事 石川重遠 Tel:029-858-9354

※タイポグラフィ研究部会では会員を募集中です。大学生、企業等の方々の参加も歓迎します。